WEEKLY SIGNAL

平成27年3月20日(金) 1267号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	3/23(月)	3/24(火)	3/25(水)	3/26(木)	3/27(金)
無担保O/N	0.030% ~ 0.125%				
銀行券	ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 3,500	+ 6,000	+ 19,000	+ 5,000	△ 1,000
資金需給	不 3,500	余 6,000	余 18,000	余 4,000	不 2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)				
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,000 CP買入 △ 200	共通担保(全店) △ 3,800			
オペスタート	共通担保(全店) + 1,100 国債買入 + 8,700 CP買入 + 5,000	共通担保(全店) + 3,900 短国買入 + 15,000			
(日本)	月例経済報告(3月)	日銀営業毎旬報告 (3月20日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	宮尾日銀審議委員 の任期終了	対外対内証券売買	CPI(全国2月、 東京都区部3月) 完全失業率(2月) 有効求人倍率(2月)
(海外)	米 中古住宅販売(2月) 米 サンフランシスコ連銀総裁が講演 米 フィッシャーFRB副議長が講演 欧 ユーロ圏消費者信頼感(3月)	米 消費者物価指数(2月) 米 FHFA住宅価格指数(1月) 米 新築住宅販売件数(2月) 欧 ユーロ圏PMI指数(3月)	米 MBA住宅ローン申請指数 米 耐久財受注(2月) 米 シカゴ連銀総裁が講演	米 新規失業保険申請件数 米 アトランタ連銀総裁が講演	米 10-12月のGDP(確定値) 米 ミシガン大学消費者マインド [*] 指数(3月確定値) 米 フィッシャーFRB副議長が講演

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.080 ~ 0.120
SPOT 2M	0.117 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.160

<インターバンク>

日銀当座預金残高は、週初183兆円台で始まり国債買入・短国買入オペ、貸出増加支援資金供給等により増加基調を辿り、国債償還が集中する20日には191兆円台に乗せ、越週した。無担保コールON物は、週前半は0.075%近辺の出会いが中心であったが、19日以降地合いは弱含み、20日は概ね0.06%台での推移となった。同金利の加重平均は20日に0.066%と、2014年末以来約2か月半ぶりの低水準をつけた。ターム物は1W物0.11%台の出会いが中心であった。16・17日に開催された日銀金融政策決定会合では金融政策の現状維持が決定され、消費者物価(前年比)の見通しについては「当面0%程度で推移する」と、前回表現「当面プラス幅を縮小する」から下方修正された。

来週の材料として、国内はCPIや完全失業率、有効求人倍率(27日)、海外では米中古住宅販売件数(23日)等が挙げられる。

【オープン市場】

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.080 ~ 0.090
TDB 3M	0.000 ~ 0.010
現先(on/1w)	0.080 ~ 0.100

<CP>

今週は、入札発行額は約7,000億円で、期落ち額約7,800億円(金融機関・ABCP除く)を下回った。期末に有利子負債を削減する動きが見られ、発行量は減少している。今週の3M物の入札発行レートは、0.090%近辺~0.100%台後半と、ほぼ横這い圏内で推移した。期内物の発行は0.100%台が中心で、期越え物との比較で高めに推移した。現先レートは、0.080%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約40,000億円となっており、期末単日では27,500億円程度。期末スタートの発行額が注目される。

<TDB>

19日に国庫短期証券3M第520回債の入札が行われたが、最高落札レートは0.0080%(前回債0.0020%)、平均落札レートは0.0020%(前回債△0.0004%)と前回債から利回りは若干上昇した。セカンダリーは3Mで0.007%近辺の出会い。6Mは目立った出会いは見られず、1Yは△0.006%近辺の地合いとなっている。来週26日に3Mの入札が行われる予定である。

<レポ>

足許GCは週初0.01%台後半での出合から始まり、振替停止期間明けおよび発行の要因から20日の受渡ではSNでは0.04%近辺まで値を戻し、TNでは0.07%台までレートが上昇した。その後、今週二度目の短国入札が行われたこともあり0.08%台後半~0.09%台半ばとさらに上昇した。週末には短国買入オペが1兆5千億円オファーされるも0.08%台後半での出合となり越週した。SCでは週を通して3月末越えの引き合いが多くみられるようになり、マイナスレートでの出合となった。2年債は349回債、5年債122・123回債、10年債は312・323・325回債、20年債は147・151回債に引合が多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。